

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677700116
法人名	アール・エイチカンパニー株式会社
事業所名	高齢者グループホーム ゆうとみい
訪問調査日	平成19年9月19日
評価確定日	平成19年10月19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 6 7 7 7 0 0 1 1 6
法人名	アール・エイチカンパニー 有限会社
事業所名	高齢者グループホーム ゆうとみい
所在地	肝属郡南大隅町根占山本2547-1 (電話) 099-28-1755
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 9月 19日

【情報提供票より】(19年 8月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 6日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 5人, 非常勤 10人, 常勤換算 9.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 一部二階建て 2 階建ての 1 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(8月 21日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	じょうさいクリニック 肝属郡医師会立病院 坂本歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな田園風景の中にホームは建てられている。建物は日当たり、風通しも良好で、入居者は居心地よく快適に暮らすことができる。同系列の医療機関の医師が毎日訪れ、医療的な管理が適切に行われている。また、施設長代理が夜間も含め常駐しており、手薄になりがちな夜間帯も適切な対応が行われているため、入居者は勿論、そのご家族も安心して利用することができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の明示 ①重要事項説明書の第3項に明記し、入居者及びご家族への周知を図るようにした。 ②運営理念を玄関の見やすい場所及び各ユニットの共有スペースに掲示した。 ③パンフレットに運営理念を明示した。 職員全員によりで話し合わせ、上記の通り改善策を実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員と共に評価の意義を話し合い、日々のサービスを振り返りながら自己評価を実施している。また、外部評価における指摘事項に関しても、ケア会議において全員で話し合い改善に向けた取り組みが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催はまだ1回であるが、その際ホーム側より会議の意義、ホームの現状報告、運営規定や重要事項説明書を使った業務運営に関する説明、自己評価及び外部評価の説明、行事予定等が発表され、参加者による意見交換が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の訪問の際、また、年2回開催している家族会や運営推進会議を通じてご家族からの意見を把握し、人事面を含め運営に反映するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や地域の活動(運動会など)に積極的に参加するなど、地元の人々との交流を図っている。また、2階を地域との交流スペースとして開放し、更なる交流を図る予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「馴染みの深い環境の中で」という表現で地域の中でその人らしく暮らし続けていくことを支えていくホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が常にケアの現場に入り、理念を基本にしたケアのあり方を職員と共有しながら、その都度気付いた点を指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域の活動(運動会など)に積極的に参加するなど地元の人々との交流を図っている。また、2階を地域との交流スペースとして開放し、更なる交流を図る予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と共に評価の意義を話し合い、日々のサービスを振り返りながら自己評価を実施している。また、外部評価における指摘事項に関しても、ケア会議において全員で話し合い、改善に向けた取り組みが行われている		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催はまだ1回であるが、その際ホーム側より会議の意義、ホームの現況報告、運営規定や重要事項説明書を使った業務運営に関する説明、自己評価及び外部評価の説明、行事予定等が発表され、参加者による意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	初回の運営推進会議に、所用により町担当者の出席がなく、また現状では、それ以外に行き来する機会もない。	○	運営推進会議への参加要請と共に、普段から町の担当者行き来する機会をつくり、お互いに協力してサービスの質の向上に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の入居者の暮らし方について、ご家族の訪問の都度報告している。また、遠方の方でなかなかホームを訪れることができないご家族へは、電話により報告されている。また、金銭管理の状況等の報告についても、訪問時に直接確認していただいたり、請求書と共に写しを送付するなどして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問の際、また、年2回開催している家族会や運営推進会議を通じてご家族からの意見を把握し、人事面を含め運営に反映するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が最小限となるように配慮するとともに、ユニット間の異動等を行った際も、その後馴染みの職員による声掛けを徹底するように努めている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護を中心とした外部研修に積極的に参加し、その他職員への研修報告等も実施しているが、ホーム内での研修は計画的に行われているとは言い難い。	○	管理者や職員を、それぞれの立場や経験、習熟度の段階に応じて育成するために必要な研修計画を立て、職員が働きながら技術や知識を身につける体制を検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加盟しており、管理者レベルの活動には参加しているが、職員レベルでの勉強会、相互訪問等は実施していない。	○	ホームの質の確保及び向上には、同業者との交流や連携が不可欠である。管理者や職員が地域の同業者とネットワークづくりや勉強会、相互評価などを通して、交流や連携を行えるような具体的な取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は、各職員が入居者に寄り添い、安心してホームでの生活にうちつけるように、ご家族との連携を密にとるなどの配慮がなされているが、入居前の取り組みに関しては十分ではなく、全てのケースで本人が安心して、納得した上でサービス入居に至っているとは言えない。	○	入居前に職員が会いに行ったり、入居予定者本人やご家族にホームに来ていただき、短時間でも一緒に過ごすなど、本人が職員やサービスの場に徐々に馴染みながら入居に至るような支援体制が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方や野菜のつくり方を入居者から習ったり、一緒に食事の準備を行うなど、お互いに喜怒哀楽を共にし、支えあいながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれの生活歴や病歴、暮らし方の希望や援助目標及びサービス内容のポイント等を一覧にまとめた情報を、計画作成担当者及び職員が共有するとともに、日々それぞれの思いや暮らし方の希望、意向の把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人やそのご家族の意見や要望をベースに、主治医、管理者、計画作成担当者、職員が参加するケア会議を開き、それぞれの立場で意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた定期的な見直しとともに、入居者の身体状況の変化や本人、ご家族からの計画変更の要望等により見直しが必要と思われる際は、介護計画の期間途中であっても、本人やご家族の意見要望を聞いた上でケア会議を開催し、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の状況に応じて通院支援を行ったり、往診等の医療処置を受けながらのホームでの生活の継続など、可能な限り柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人やそのご家族の希望するかかりつけ医による受診が可能となるよう、支援している。かかりつけ医は、ほとんどが協力医療機関となっており、連絡も密にとられ必要な時に適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期において、適切な医療処置を望む方がほとんどであり、入居の際に同意書をいただくとともに、かかりつけ医とも繰り返し話し合いが行われている。同意書の確認により、職員も方針を理解している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアにおいて自尊心を傷つけることのないように、特に注意を払っている。記録等個人情報の取り扱いに関しても、個人情報保護規定を作成し厳格な取り扱いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、あくまでも入居者一人ひとりのその日の状態や気分を優先し、希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や料理方法など、入居者の希望を聞きながら食事を楽しめるように支援している。また、料理の下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳など、できることは入居者と一緒に行い、食事も入居者と同じものを一緒に食べている。		
		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯等の目安はあるが、入居者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう、臨機応変に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、室内の掃除、洗濯物たたみ、野菜づくり、裁縫など、入居者それぞれの生活歴や趣味を活かした楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
		○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさず、できるだけ戸外に出かけるように、外部での食事や季節に応じた外出(花見やドライブなど)を実施している。また、日常的にも散歩に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を十分認識しており、日中鍵をかけることはない。職員のみならず近隣の住民の方々も見守ってくださるため、入居者は制約を受けることなく、自由に出入りできる環境にある。		
		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	毎年、消防避難訓練を実施しているが、昼間を想定した訓練のみ実施しており、夜間を想定した訓練を実施していない。但し、施設長代理が常時ホームに寝泊りするとともに、職員の多くが近隣に居住し、緊急時にはすぐに駆けつける体制が整っている。また、民生委員や自治会長を通じ、近隣の住民の協力を得られるよう働きかけを行っている。	○	昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけるためにも、夜間を想定した訓練の実施を検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌や水分摂取量チェック表により、食べる量や水分量が一日を通じて確保できるように支援している。また、管理栄養士に定期的に献立をチェックしてもらい等、栄養バランスについても配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からは包丁や水の音が聞こえ、料理の匂いが漂うなど生活観を感じることができ、日中入居者が思い思いに過ごす共用スペースは、日当たりや風通しが良好で居心地よく過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌やご家族の写真、馴染みの家具などが多く持ち込まれ、入居者が安心して居心地よく過ごせる居室となっている。		